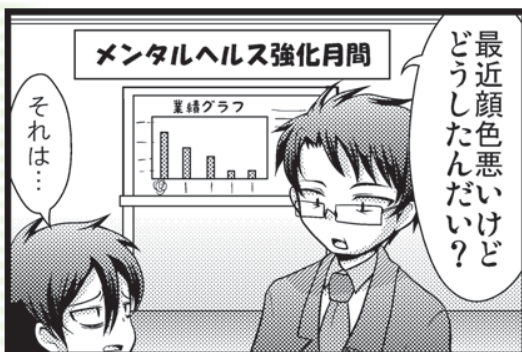
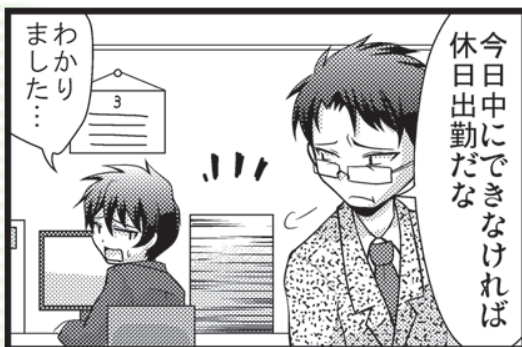


よしたに ともき  
作：吉谷 友希

職場における  
心の健康管理



とし、一審の大阪地裁判決を踏まえた和解協議に応じることを拒否、判決を求めることを高裁に伝えた。

同省はその理由として、①国の責任を認めた一審判決を解決基準とすることは、後続訴訟や他の国家賠償訴訟への影響が大きい、②原告全員の救済を求める原告側と国との主張には依然として大きな隔たりがあり、和解で双方が納得できる解決を図るには機が熟していない、③控訴審における審理はほぼ終了してお

新たなメンタルヘルス対策が法制化へ  
——労政審が安衛法の改正を建議

厚生労働省

厚生労働省は昨年12月22日、労働政策審議会・安全衛生分科会を開催。同分科会は、労働安全衛生法の改正を念頭に置いた「今後の安全衛生対策について」を建議した。

●受動喫煙防止対策

従来のガイドラインレベルでの規制を、法律レベルに格上げ。健康障害防止の視点から受動喫煙を防止する。事務所や工場などでは、「全面禁煙」や喫煙室のみでの喫煙を認める「空間分煙」を行うことを事業者が義務づける。また、顧客が喫煙する飲食店などについては、可能な限り労働者の受

動喫煙の機会を低減させることが事業者の義務に。なお、今回の改正では、これら義務に対しての罰則は見送られる模様。

●メンタルヘルス対策

医師が労働者のストレスに関する症状・不調を確認し、この結果を受けた労働者が、事業者に対して医師による面接の申出を行った場合、事業者が医師による面接指導や医師からの意見聴取などを行うことを事業者の義務とする“新たな枠組み”を導入する。

同省は建議を受けて改正法案を作成、今通常国会に提出する予定だ。

大阪アスベスト訴訟控訴審、  
国は和解に応じず——看過できない法律上の問題点を指摘

厚生労働省

厚生労働省は2月22日、大阪・泉南地域におけるアスベスト(石綿)被害をめぐる国家賠償請求訴訟(大阪アスベスト訴訟)の控訴審の進行協議期日において、「一審判決には看過できない法律上の問題がある」など

り、早期の判決が期待できる(“時間稼ぎ”には当たらない)——などを挙げた。

これにより、同控訴審は5月にも結審、年内にも判決が示される見込みとなった。

今回の方針決定を受けて同省は、建設物解体作業でのばく露防止をはじめ、総合的なアスベスト対策を引き続き実施し、労働環境の向上や健康被害の防止に全力を挙げて取り組むことを、あらためて表明した。

# 産業保健の重要性を投げかける

第32回産業保健活動推進全国会議

平成23年1月27日、日本医師会館大講堂にて、第32回産業保健活動推進全国会議が開催された。各都道府県の産業保健推進センターの所長や地域産業保健センターの担当者などが参加し、産業保健活動について内容や現状の報告が行われた。

午前中は、平成22年度から運営者が地域によって異なった地域保健産業センターについて、それぞれの立場から活動内容や現状について発表がなされた。運営者としては、大阪府医師会・栃木産業保健推進センターから、ま

た実施する立場として大阪市北区医師会からの発表となった。

また、午後には、産業保健活動に対する国の支援について、鈴木幸雄・厚生労働省労働衛生課長が説明を行った。その説明を受けて、今村聡・日本医師会常任理事からは、産業保健活動の重要性を投げかけた。具体的には、「産業保健推進センター廃止に対する反対要望」などを医師会の当面の対応として、今後のさらなる協力を求めた。

その後、参加者からの質問に対して活発な意見交換が行われた。



## 目で見える職業病と労働環境



編・発行：  
中央労働災害防止協会  
定価：  
37,800円（税込）

このたび中央労働災害防止協会では、過去に発生した職業病について、症状とそれらを取り巻く労働環境などの歴史を写真や新聞記事などを書籍にまとめた。また、掲載写真を収録したCD-ROMもあり、独習や研修などにも活用できる。労働衛生対策や、職業病の症状の勉強に役立つものといえよう。

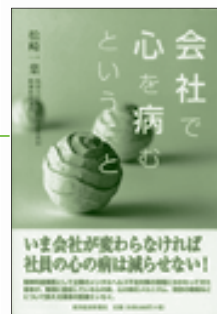
### 産業保健

## この一冊

## 会社で心を病むということ

著者 松崎一葉  
発行 東洋経済新報社 定価 1,680円（税込み）

金城大学医療健康学部・教授  
(独) 労働者健康福祉機構石川産業保健推進センター所長 小山善子



会社で心を病む人が年々増加、特にうつ病と診断されている人が増えている。会社でうつ病の人にどのように対応すればいいのか、復職がなかなかうまく進まず、復職困難例をどのように支援すればいいのかとの相談も少なくない。

うつ病の拡大診断につれ、その多様性に混乱し、従来型のうつ病と異なった最近の若い人に見られる現代型うつ病の対応に、会社だけでなく、精神科医もその治療に苦慮しているところである。それらに答えるべく、精神科医でもある著者が、産業医として長年現場で体験してきたものをまとめた医療エッセーである。読者は、「あ、そうだったのか」と日頃のもやもやとしていた疑問を雲が晴れるかのごとく解決されていく思いで、読み進めていくことだろう。

本書は会社で心を病む人たちの現状から始まり、1.

心のメカニズム、2.なぜ、会社で心を病むのか、3.現実とのミスマッチ、4.精神科産業医の処方箋、5.心のホットライン、6.もう会社で心を病ませないの6章から構成されている。

「うつ病になる社員が増えて困った状態であるならば、それは社員に問題があるのでなく会社の問題があるのかもしれない」、役立つ正しい知識を持つことから「うつ病は予防できる」「一人の意識が変われば組織も変わる。社員を大切にしない企業はいずれ淘汰される」と著者は明言する。メンタルヘルス対策の必要性・重要性を理解するためにも企業の経営者、管理者にはぜひ読んでいただきたい。著者のメンタルヘルスにける熱意が伝わってくる本書は産業保健に携わる人たちにとってのバイブルの1冊となる、医療エッセーである。